

## 第5 平成 24 年度財務書類4表(普通会計)

### 1 はじめに

貸借対照表(バランスシート)及び行政コスト計算書の財務書類に関しては、平成12年3月及び平成13年3月に、総務省の「地方公共団体の総合的な財政分析に関する調査研究会報告書」において示された基準(いわゆる「総務省方式」)に基づき、本県においても作成し、ホームページに掲載してきたところです。

その後、平成18年8月には、「地方公共団体における行政改革の更なる推進のための指針」(総務省事務次官通知)が国から示され、貸借対照表、行政コスト計算書のほか、純資産変動計算書、資金収支計算書の4表を作成し、公表することについて各地方公共団体に対して要請されました。

これを受け、県では、平成20年度決算から総務省方式改訂モデルに基づき普通会計の財務書類4表を作成しており、今回、平成24年度財務書類4表を作成、公表することとしました。

### 2 財務書類4表の整備の意義

#### (1)現金主義による会計処理の補完

現金主義会計では、見えにくいコスト(減価償却費、退職手当引当金等)を明らかにするほか、資産・債務といったストック情報を把握することができます。

#### (2)情報開示の手段の一つとして

現金主義会計における決算書や決算統計などの書類には、財政分析を行ううえで有意義な情報がありますが、一覧性に欠けることがあります。貸借対照表などの財務書類4表は、財務情報をコンパクトかつ総覧的に示し、情報開示の手段として有効に活用することができます。

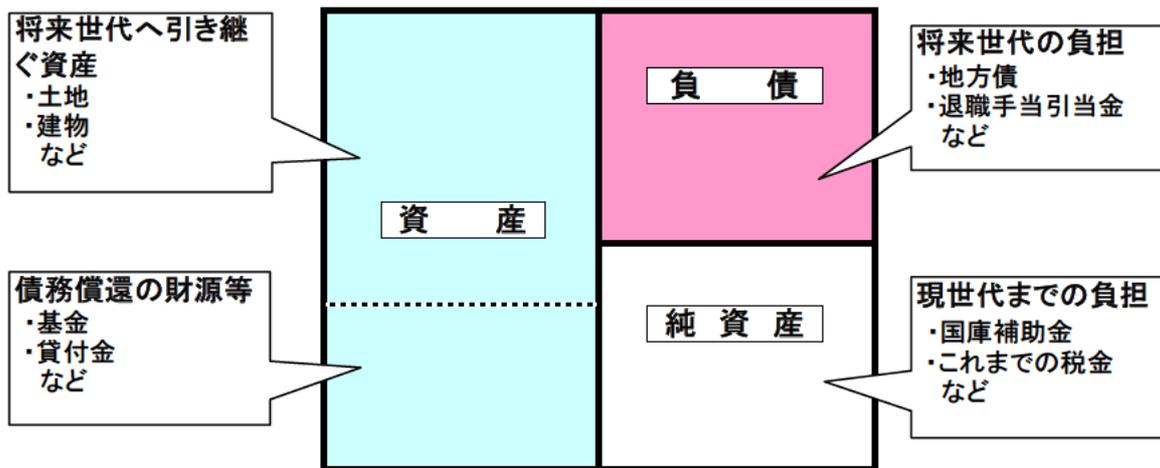
### 3 財務書類4表各表の特徴(読み方)

#### (1)貸借対照表

地方公共団体が住民サービスを提供するために保有している資産と、その資産をどのような財源で賄ってきたかを総括的に表示した一覧表です。

##### 【何がわかるか】

- ・将来世代に引き継ぐ資産の金額はどれぐらいか。
- ・将来世代の負担はどれぐらいか。
- ・将来職員が退職する場合の負担はいくらか。



## (2) 行政コスト計算書

4月1日から翌年の3月31日までの1年間の行政活動のうち福祉サービスや教育などといった資産形成に結びつかない行政サービスに係る経費とその行政サービスの直接の対価（使用料、手数料など）として得られた財源を対比させたものです。

【何がわかるか】

- ・経常的な行政サービスにかかったコストはどれぐらいか。
- ・受益者負担でどれほどコストが賄われたか。

## (3) 純資産変動計算書

貸借対照表の純資産の部に計上されている各数値が1年間でどのように変動したかを表したものです。

【何がわかるか】

- ・現世代までの負担とされる純資産がどのように変動したのか。
- ・資産はどのような財源で形成されたのか。

## (4) 資金収支計算書

資金の出入りの情報を、「経常的収支の部」、「公共資産整備収支の部」及び「投資・財務的収支の部」の3つに分けて表したものです。

【何がわかるか】

- ・経常的経費や投資的経費の財源はどのようになっているのか。
- ・年間での資金の変動はどうなっているのか。
- ・基礎的財政収支（プライマリーバランス）はどういう状況か。

4 財務書類4表(簡易版)

(単位:億円)

貸借対照表

資産の部	金額	負債の部	金額
1. 公共資産	26,734	1. 固定負債	14,294
(1)有形固定資産	26,728	(1)地方債	12,176
(2)売却可能資産	6	(2)退職手当引当金	2,045
		(3)その他	73
2. 投資等	2,249	2. 流動負債	1,276
(1)投資及び出資金	1,403	(1)翌年度償還予定地方債	950
(2)貸付金	323	(2)その他	326
(3)基金等	426		
(4)長期延滞債権	105		
(5)回収不能見込額	△ 9	負債合計	15,571
		純資産の部	金額
3. 流動資産	485	純資産合計	13,898
(1)現金預金	467		
うち歳計現金	219		
(2)未収金	19		
うち回収不能見込額	△ 4		
資産合計	29,468	負債及び純資産合計	29,468

行政コスト計算書

経常行政コスト	5,563
1. 人にかかるコスト	2,204
(1)人件費	1,878
(2)退職手当引当金繰入	208
等	
2. 物にかかるコスト	1,222
(1)物件費	234
(2)維持補修費	52
(3)減価償却費	937
3. 移転支的的なコスト	1,959
(1)社会保障給付	109
(2)補助金等	1,373
(3)公共資産整備補助金等	421
等	
4. その他のコスト	177
(1)公債費(利払)	174
等	
経常収益	64
使用料・手数料等	59
純経常行政コスト (経常行政コスト-経常収益)	5,499

純資産変動計算書

	金額
期首純資産残高	14,807
純経常行政コスト	△ 5,499
財源調達	4,589
うち地方税	2,068
うち地方交付税	1,391
うち補助金	898
うちその他	232
資産評価替・無償受入	1
期末純資産残高	13,898

※点線は、4表の間における相互の関連を示す。

資金収支計算書

	金額
1. 経常的収支	1,220
2. 公共資産整備収支	△ 226
3. 投資・財務的収支	△ 983
当年度歳計現金増減額	11
期首歳計現金残高	208
期末歳計現金残高	219

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

## 5 各表の概要

### (1) 貸借対照表(バランスシート)

#### ア 概要

近年における投資的経費の縮小などの影響で資産の償却が新たな資産の形成を上回ったことや、土地開発基金などを取り崩したことによる基金残高の減等により、資産合計では0.7%の減少となりました。

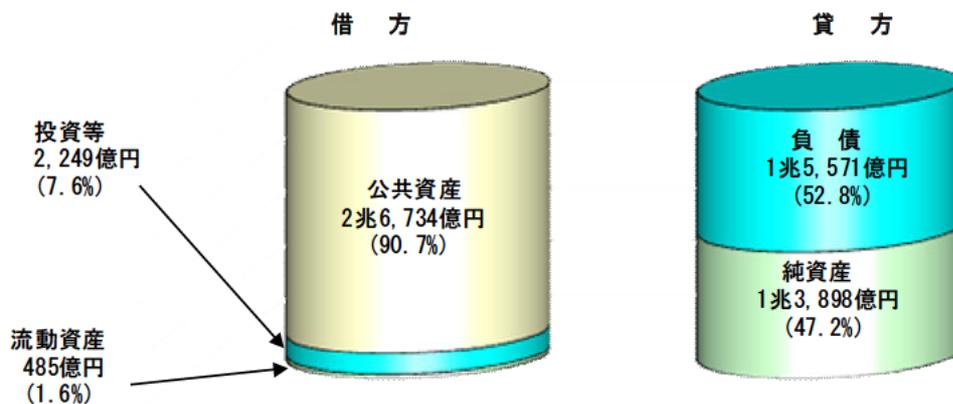
一方で、国の地方財政対策による臨時財政対策債の残高が累増したこと等により、負債が4.7%の増加となっています。

(平成25年3月31日現在)

借 方		貸 方	
<b>将来世代へ引継ぐ社会資本</b>		<b>将来世代の負担となる債務</b>	
1. 公共資産	2兆6,734億円 (△0.6%)	1. 固定負債	1兆4,294億円 (4.6%)
①有形固定資産	2兆6,728億円 (△0.6%)	2. 流動負債	1,276億円 (4.9%)
②売却可能資産	6億円 (18.7%)	負債合計	1兆5,571億円 (4.7%)
<b>債務償還の財源等</b>		<b>これまでの世代の負担</b>	
2. 投資等	2,249億円 (△4.5%)	1. 公共資産等整備国庫補助金等	7,283億円 (△0.8%)
3. 流動資産	485億円 (10.0%)	2. 公共資産等整備市町村負担金等	935億円 (△2.1%)
		3. 公共資産等整備一般財源等	1兆6,172億円 (△1.3%)
		4. その他一般財源等	△1兆492億円 (△6.3%)
		5. 資産評価差額	1億円 (155.5%)
		純資産合計	1兆3,898億円 (△6.1%)
資産合計	2兆9,468億円 (△0.7%)	負債・純資産合計	2兆9,468億円 (△0.7%)

注：( )は対前年度増減率  
(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

普通会計バランスシートの構成



## イ 県民 1 人当たりのバランスシート

県民 1 人当たりのバランスシートは、バランスシート上の各々の金額を平成 25 年 3 月 31 日住民基本台帳人口で除して算出したものです。

県民 1 人当たりの資産は 157 万 4 千円と前年度に比べて 4 万円の減少となりました。一方、県民 1 人当たりの負債は 83 万 2 千円と前年度に比べて 2 万 3 千円の増加となっています。その結果、県民 1 人当たりの純資産は 74 万 3 千円と前年度に比べて 6 万 3 千円減少しています。

### 県民1人当りバランスシート

	平成24年度末	平成23年度末	増 減
資 産	1,574,477 円	1,614,556 円	△ 40,079 円
負 債	831,936 円	809,201 円	22,735 円
純 資 産	742,541 円	805,354 円	△ 62,813 円
住 基 人 口	1,871,619 人	1,838,613 人	33,006 人

(住民基本台帳法の改正に伴い、平成 24 年度末住基人口には、外国人住民も含まれています。)

## ウ 平成 24 年度バランスシート各項目の説明

### ① 資産の部

資産は、地方公共団体の経営資源として用いられると見込まれるもので、現金・預金、土地、建物、備品、未収金、貸付金等です。

#### i) 公共資産

公共資産は、「有形固定資産」と「売却可能資産」から構成され、資産の大部分を占めています。「有形固定資産」は長期間にわたって住民サービスを提供するために使用されるもので、具体的には、土地、建物等が該当し、行政目的別に区分されています。内訳を見ると、「①生活インフラ・国土保全（道路・橋りょう、河川など）」で 1 兆 8,998 億円と最も多く、「⑤産業振興（農道、林道、かんがい施設など）」で 3,795 億円、「②教育（高校など）」で 2,229 億円と続いています。

また、「売却可能資産」は、公共資産のうち未利用資産など現在行政目的のために使用されていない資産を表しており、合計で 6 億円となっています。

#### ii) 投資等

投資等は、企業会計や第三セクターへの出資金や貸付金、基金（特定目的基金および定額運用基金）、回収期限が到来してから 1 年以上回収できていない債権（長期延滞債権）などの資産が計上されています。内訳は、「投資及び出資金」が 1,403 億円、「貸付金」が 323 億円、「基金等」が 426 億円、「長期延滞債権」が 105 億円となっており、「回収不能見込額」<sup>注</sup>9 億円を差し引いた投資等合計で 2,249 億円となっています。

注)「回収不能見込額」とは、貸付金や長期延滞債権のうち、将来回収することが出来なくなると見込まれる金額で、過去の回収不能実績を基にして機械的に見積もっているものです。

#### iii) 流動資産

流動資産は、流動性の高い基金である財政調整基金や県債管理基金、形式収支に相当する歳計現金、税金等の未収金が計上されています。「現金預金」は、財政調整基金、県債管理基金、歳計現金の合計で 467 億円、「未収金」は、回収不能見込額を差し引き 19 億円となっています。

## ② 負債の部

負債とは、将来に支払いや返済の必要があるもので、バランスシート作成基準日（平成 25 年 3 月 31 日）翌日から一年以内に支払期限が到来するものを流動負債、それ以外を固定負債としています。

### i) 固定負債

#### ・ 地方債

地方債のうち、作成基準日における地方債残高から、翌年度に予定されている元金償還額を控除した額を計上しており、1 兆 2,176 億円となっています。

#### ・ 長期未払金

長期未払金は、既に物件の引渡しやサービスの提供を受けたものについてまだ支払っていない額、あるいは債務保証や損失補償の履行が決定した額などです。

#### ・ 退職手当引当金

退職手当引当金は、全職員が該当年度末時点で普通退職した場合に必要な退職手当額から翌年度支払予定退職手当額を控除した額を計上しています。

#### ・ 損失補償等引当金

損失補償等引当金は、第三セクター等に係る損失補償債務であって、履行額が確定していないもののうち、発生の可能性が高く、かつ、その金額を合理的に見積もることが可能なものを計上しています。具体的には、財政健全化法における将来負担額に算入される第三セクター等の損失保証債務等を引当金として計上しています。

### ii) 流動負債

#### ・ 翌年度償還予定地方債

作成基準日の翌日から1年以内に償還を予定している地方債の元金償還額を計上しています。

#### ・ 短期借入金(翌年度繰上充用金)

繰上充用は、歳入が歳出に不足する場合に翌年度の歳入を繰り上げてその年度の歳入に充用することをいいます。三重県においては該当がありません。

#### ・ 未払金

固定負債の長期未払金が翌々年度以降の支出予定額であるのに対し、翌年度支出予定額は未払金として計上されます。

#### ・ 翌年度支払予定退職手当

翌年度支払予定退職手当は、職員に支払う退職手当のうち翌年度支払予定額で、翌年度予算に計上されている額を計上しています。

#### ・ 賞与引当金

賞与引当金は、翌年度に支給される賞与のうち当該年度に発生した分の金額を計上しています。翌年度の6月に支払われる賞与は、当年度の12月から翌年度の5月までの6か月分の勤

務に対して支払われるものと考えられるため、当年度の12月から3月までの4か月分に相当する額を当年度に発生したコストとして認識するものです。

### ③ 純資産の部

借方（バランスシートの左側）に計上される資産を形成するために充当された財源のうち、現在までの世代が負担した税金などの一般財源や、国からの補助金などを「純資産」としています。なお、これは民間企業の「資本」に似た概念となっています。

#### i) 公共資産等整備国庫補助金等

公共資産等整備国庫補助金等は、住民サービスを提供するための財産を取得した財源のうち国からの補助金に当たるものです。三重県においては、借方に計上されている公共資産等のうち、7,283億円を国からの補助金によって整備されていることとなります。

#### ii) 公共資産等整備市町村負担金等

公共資産等整備市町村負担金等は、住民サービスを提供するための財産を取得した財源のうち市町村からの負担金等に当たるものです。三重県においては、借方に計上されている公共資産等のうち、935億円を市町村からの負担金等によって整備されていることとなります。

#### iii) 公共資産等整備一般財源等

公共資産等整備一般財源等は、住民サービスを提供するための財産を取得した財源のうち、上記の国庫支出金、市町村負担金等と地方債（建設地方債）を除いた部分です。三重県においては、借方に計上されている公共資産等のうち、1兆6,172億円を税金等の一般財源によって整備されていることとなります。

#### iv) その他一般財源等

その他一般財源等は、公共資産等以外の資産から公共資産等整備財源以外の負債を差し引いた額です。したがって、翌年度以降に自由に使用できる財源ということになります。三重県においては1兆492億円のマイナスになっていますが、退職手当引当金や臨時財政対策債などの資産形成につながらない負債に対してそれらの支払いに対する備えが蓄えられていないことを表しています。ただし、臨時財政対策債などの償還については、後年度、地方交付税で補てんされ、財源は確保されることになっています。

#### v) 資産評価差額

資産評価差額は、「売却可能資産」の取得価額と売却可能価額との差額や、「投資及び出資金」のうち市場価格のある有価証券の取得価額と時価との差額などです。三重県においては、1億円のプラス（評価増）になっています。

## (2) 行政コスト計算書

### ア 概要

バランスシートが地方公共団体の資産、負債等の状況を明らかにするものであるのに対し、行政コスト計算書は人的サービスや給付サービスなど資産形成につながるものない行政サービスの経費を総合的にわかりやすく説明するものです。

三重県の平成24年度中の行政コスト総額は5,499億円となり、「人にかかるコスト」が39.6%と大きな割合を占めています。

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

#### 【経常行政コスト】

区 分		金額	構成比	
1	人にかかるコスト	(1) 人件費	1,878 億円	33.8 %
		(2) 退職手当引当金繰入金	208 億円	3.7 %
		(3) 賞与引当金繰入額	118 億円	2.1 %
		計	2,204 億円	39.6 %
2	物にかかるコスト	(1) 物件費	234 億円	4.2 %
		(2) 維持補修費	52 億円	0.9 %
		(3) 減価償却費	937 億円	16.8 %
		計	1,222 億円	22.0 %
3	移転支出的なコスト	(1) 社会保障給付	109 億円	2.0 %
		(2) 補助金等	1,373 億円	24.7 %
		(3) 他会計等への支出額	56 億円	1.0 %
		(4) 公共資産整備補助金等 (他団体等への補助金等)	421 億円	7.6 %
		計	1,959 億円	35.2 %
4	その他にかかるコスト	(1) 支払利息	174 億円	3.1 %
		(2) 回収不能見込計上額	3 億円	0.1 %
		(3) その他行政コスト	0 億円	0.0 %
		計	177 億円	3.2 %
経 常 行 政 コ ス ト 計		5,563 億円	100 %	

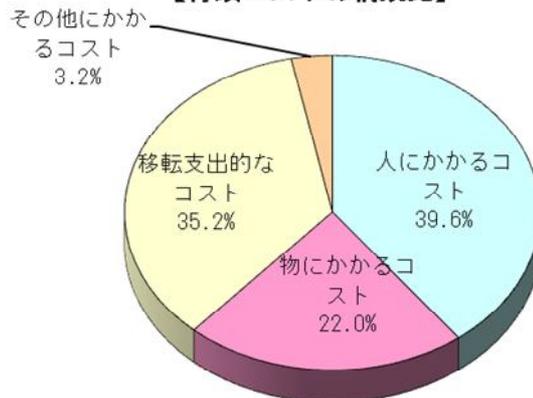
#### 【経常収益】

1	使用料・手数料	59 億円	91.1 %
2	分担金・負担金・寄附金(市町村からのものを除く)	6 億円	8.9 %
経 常 収 益 計		64 億円	100 %

(差引)純経常行政コスト	5,499 億円
--------------	----------

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

#### 【行政コストの構成比】



## イ 県民1人当たりの行政コスト

県民1人当たりの行政コストは、行政コスト計算書上の各々の金額を平成25年3月31日住民基本台帳人口で除して算出したものです。

県民1人当たりの行政コストは29万4千円と前年度に比べて1万9千円の減少となりました。

県民1人当り行政コスト

性質別	平成24年度末	平成23年度末	増減
1 人にかかるコスト	117,765 円	130,881 円	△ 13,116 円
2 物にかかるコスト	65,315 円	68,888 円	△ 3,573 円
3 移転支出的なコスト	104,672 円	106,694 円	△ 2,022 円
4 その他にかかるコスト	9,472 円	9,859 円	△ 387 円
行政コスト 合計	297,224 円	316,322 円	△ 19,098 円
1 使用料・手数料	3,130 円	3,274 円	△ 144 円
2 分担金・負担金・寄附金 (市町村からのものを除く)	307 円	590 円	△ 283 円
経常収益 合計	3,437 円	3,864 円	△ 427 円
(差引)純行政コスト	293,787 円	312,458 円	△ 18,671 円
住基人口	1,871,619 人	1,838,613 人	33,006 人

(住民基本台帳法の改正に伴い、平成24年度末住基人口には、外国人住民も含まれています。)

### (3) 純資産変動計算書

純資産変動計算書は、貸借対照表の純資産の部に計上されている各数値について、会計年度中の動きを表す計算書です。純資産の部を構成する「公共資産等整備国庫補助金等」「公共資産等整備市町村負担金等」「公共資産等整備一般財源等」「その他一般財源等」「資産評価差額」について、その増減の要因となった項目が左列に掲げられています。

#### ① 純経常行政コストと財源

純経常行政コストの金額に対して一般財源及び経常的な補助金等受入の金額がどの程度あるかをみることにより、純経常行政コストが受益者負担以外の経常的な財源によりどの程度賄われているかが分かります。純経常行政コスト5,499億円に対して、地方税などの経常的な一般財源が3,835億円、補助金が898億円あることが分かります。

#### ② 臨時損益

経常的なコストや財源のほかに、臨時的な損益として、167億円の災害復旧事業費のほか、公共資産の売却に伴う利益が3億円、投資および出資金の時価もしくは実質価額の下落による投資損失が10億円あることが分かります。

#### ③ 科目振替

資本的な収入及び支出に伴い、純資産内部の振替が発生します。具体的には以下のようなものがあります。

#### i) 公共資産整備への財源投入

財源として拘束されていなかった一般財源が、公共資産や貸付金、出資金の財源として使用される（資本的支出）ことにより、公共資産等整備一般財源等として拘束されま  
す。

#### ii) 公共資産処分による財源増、貸付金・出資金等の回収等による財源増

公共資産等の財源として拘束されていた財源が、公共資産の処分や貸付金・出資金等  
の回収により使途の自由な一般財源として回収された（資本的収入）ことを表していま  
す。

#### iii) 減価償却による財源増

公共資産等の財源として拘束されていた財源が、公共資産の減価償却に伴い一般財源  
として回収されたことを表しています。

#### iv) 地方債償還に伴う財源振替

公共資産等整備の財源として発行された地方債を償還することにより、公共資産等整  
備の財源のうち地方債によって賄われていた部分が一般財源に置き換わることになり  
ます。

### ④ 資産評価替えによる変動額

売却可能資産や有価証券の時価評価に伴い生じる資産評価差額が計上されます。

## (4) 資金収支計算書

資金収支計算書は、歳計現金の出入り情報を性質の異なる3つの区分に分けて表示した財務  
書類です。3つの区分とは、「経常的収支の部」「公共資産整備収支の部」「投資・財務的収支の  
部」になります。

また、プライマリーバランス（基礎的財政収支）の状況が注記されています。

### ① 経常的収支の部の内訳

経常的収支の部には、人件費や物件費などの支出と税収や手数料などの収入が計上されてお  
り、日常の行政活動による資金収支の状況が表示されています。支出は大きいものから、人件  
費が2,235億円、補助金等が1,373億円、物件費が234億円となっています。一方、収入は大  
きいものから、地方税が2,068億円、地方交付税が1,391億円、地方債発行額945億円となっ  
ています。経常的収支差額の1,220億円は公共資産整備や地方債償還などに充当されること  
になります。

### ② 公共資産整備収支の部の内訳

公共資産整備収支の部では、公共資産の整備などによる支出とその財源である補助金・借金  
などによる収入が計上されており、いわゆる公共事業に伴う資金の使途とその財源の状況が表  
示されています。支出としては、自団体で行う公共資産整備に798億円、他団体で行う公共資

産整備に 421 億円、他会計等で建設費に充当される財源として支出したものが 1 億円となっています。また、収入としては、建設地方債の発行が 644 億円、国庫補助金等が 253 億円などとなっています。公共資産整備収支額は 226 億円の赤字となっていますが、これは経常的収支、すなわち一般財源で賄われたことを意味します。

### ③ 投資・財務的収支の部の内訳

投資・財務的収支の部では、出資、貸付、基金の積み立て、借金の返済などによる支出とその財源である補助金、借金、貸付金元金の回収などの収入が計上されており、投資活動や借金の返済（財務活動）による資金の出入りの状況が表示されています。支出としては、地方債償還額が 891 億円、基金積立額が 185 億円、貸付金が 62 億円などとなっています。また、収入としては、貸付金回収額が 91 億円、国庫補助金等が 89 億円などとなっています。投資・財務的収支額は 983 億円の赤字となっていますが、これは経常的収支、すなわち一般財源で賄われることとなります。

### ④ プライマリーバランス(基礎的財政収支)に関する情報

プライマリーバランス（基礎的財政収支）とは、公債の利払い費と償還額を除いた歳出と、公債発行収入を除いた歳入のバランスをみるものです。年度間の財源調整機能を果たす財政調整基金や県債管理基金の取崩額や積立額も除きます。

本県の場合、1 年間で 11 億円の歳計現金が増加していますが、地方債の元利償還額（1,065 億円）よりも地方債発行額（1,603 億円）が上回っていることなどにより、基礎的財政収支は 513 億円のマイナスとなっています。

なお、ここでは、地方交付税の身代わりともいうべき臨時財政対策債や、減収補てん債（特例分）が地方債として扱われていますが、これらを一般財源と同じものとして扱うこととする等の修正を加えると、基礎的財政収支は、10 億円のマイナスになります。

貸借対照表  
(平成25年3月31日現在)

(単位：千円)

借 方		貸 方	
<b>【資産の部】</b>			
1 公共資産			
(1) 有形固定資産			
①生活インフラ・国土保全	1,899,809,640		
②教育	222,894,847		
③福祉	5,956,323		
④環境衛生	13,673,788		
⑤産業振興	379,493,504		
⑥警察・消防	55,076,994		
⑦総務	95,884,898		
有形固定資産合計	2,672,789,994		
(2) 売却可能資産	610,614		
公共資産合計	2,673,400,608		
2 投資等			
(1) 投資及び出資金			
①投資及び出資金	140,387,095		
②投資損失引当金	△ 86,805		
投資及び出資金計	140,300,290		
(2) 貸付金	32,313,368		
(3) 基金等			
①退職手当目的基金	0		
②その他特定目的基金	40,114,379		
③土地開発基金	2,474,966		
④その他定額運用基金	0		
⑤退職手当組合積立金	0		
基金等計	42,589,345		
(4) 長期延滞債権	10,528,796		
(5) 回収不能見込額	△ 850,285		
投資等合計	224,881,514		
3 流動資産			
(1) 現金預金			
①財政調整基金	20,754,096		
②減債基金	4,000,001		
③歳計現金	21,903,562		
現金預金計	46,657,659		
(2) 未収金			
①地方税	1,818,828		
②その他	415,234		
③回収不能見込額	△ 353,626		
未収金計	1,880,436		
流動資産合計	48,538,095		
資 産 合 計	2,946,820,216		
<b>【負債の部】</b>			
1 固定負債			
(1) 地方債			
(2) 長期未払金		1,217,598,239	
①物件の購入等	7,254,008		
②債務保証又は損失補償	0		
③その他	0		
長期未払金計	7,254,008		
(3) 退職手当引当金	204,458,061		
(4) 損失補償等引当金	117,237		
固定負債合計		1,429,427,545	
2 流動負債			
(1) 翌年度償還予定地方債	94,963,035		
(2) 短期借入金（翌年度繰上充用金）	0		
(3) 未払金	0		
(4) 翌年度支払予定退職手当	20,860,664		
(5) 賞与引当金	11,815,277		
流動負債合計		127,638,976	
負 債 合 計		1,557,066,521	
<b>【純資産の部】</b>			
1 公共資産等整備国庫補助金等			
		728,276,675	
2 公共資産等整備市町村負担金等			
		93,460,067	
3 公共資産等整備一般財源等			
		1,617,178,029	
4 その他一般財源等			
		△ 1,049,211,982	
5 資産評価差額			
		50,907	
純 資 産 合 計		1,389,753,695	
負 債 ・ 純 資 産 合 計		2,946,820,216	

※1 他団体及び民間への支出金により形成された資産

	合計額	うち市町村で 形成された資産
①生活インフラ・国土保全	578,300,118	23,852,332 千円
②教育	17,200,630	4,093,288 千円
③福祉	58,535,310	17,729,553 千円
④環境衛生	23,023,658	13,415,510 千円
⑤産業振興	206,769,602	108,082,574 千円
⑥警察・消防	0	0 千円
⑦総務	23,396,251	18,738,257 千円
計	907,225,569	185,911,514 千円

上の支出金に充当された財源

①国庫補助金等	111,419,068 千円
②市町村負担金等	11,076,207 千円
③地方債	347,005,492 千円
④一般財源等	437,724,802 千円
計	907,225,569 千円

※2 債務負担行為に関する情報

(予算上の債務負担行為の限度額であり、債務残高ではありません。)

①物件の購入等	24,811,672 千円
②債務保証又は損失補償	4,677,276,946 千円
(うち共同発行地方債に係るもの)	4,671,000,000 千円)
③その他	42,727,291 千円

※3 地方債残高(翌年度償還予定額を含む)のうち856,715,692千円については、償還時に地方交付税の算定の基礎に含まれることが見込まれているものです。

※4 普通会計の将来負担に関する情報

(貸借対照表に計上したものを含む)

普通会計の将来負担額	1,632,649,701 千円
[内訳] 普通会計地方債残高	1,322,500,103
債務負担行為支出予定額	28,059,607
公営事業地方債負担見込額	46,149,482
一部事務組合等地方債負担見込額	10,504,547
退職手当負担見込額	225,318,725
第三セクター等債務負担見込額	117,237
連結実質赤字額	0
一部事務組合等実質赤字負担額	0
基金等将来負担軽減資産	915,425,373
[内訳] 地方債償還額等充当基金残高	33,391,506
地方債償還額等充当歳入見込額	25,318,175
地方債償還額等充当交付税見込額	856,715,692
(差引)普通会計が将来負担すべき実質的な負債	717,224,328 千円

※5 有形固定資産のうち、土地は559,180,123千円です。また、有形固定資産の減価償却累計額は1,987,156,856千円です。

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

行政コスト計算書

自 平成24年4月 1日  
至 平成25年3月31日

【経常行政コスト】

(単位：千円)

	総 額	(構成比率)	生活インフラ・国土保全	教 育	福 祉	環 境 衛 生	産 業 振 興	警 察 ・ 消 防	総 務	議 会	支 払 利 息	回収不能見込計上額	その他行政コスト	
1	(1)人件費	187,809,687	33.8%	7,116,015	125,747,727	3,908,103	3,970,824	9,054,023	25,322,230	11,670,041	1,020,724		0	
	(2)退職手当引当金繰入等	20,786,538	3.7%	764,899	13,876,766	499,316	478,733	1,149,096	3,014,330	967,471	35,926		0	
	(3)賞与引当金繰入額	11,815,277	2.1%	368,572	7,974,653	248,409	252,278	558,628	1,608,633	739,615	64,490		0	
	小 計	220,411,502	39.6%	8,249,487	147,599,146	4,655,828	4,701,835	10,761,747	29,945,193	13,377,127	1,121,140		0	
2	(1)物件費	23,388,802	4.2%	1,290,654	6,143,925	1,261,135	1,608,005	3,639,373	3,668,986	5,432,052	208,193		136,479	
	(2)維持補修費	5,204,634	0.9%	4,555,133	257,327	0	0	79	295,375	96,720	0			
	(3)減価償却費	93,651,273	16.8%	49,955,831	6,785,391	624,741	880,349	27,742,568	3,740,253	3,922,140				
	小 計	122,244,709	22.0%	55,801,618	13,186,643	1,885,876	2,488,354	31,382,020	7,704,614	9,450,912	208,193		136,479	
3	(1)社会保障給付	10,860,325	2.0%		120,687	10,328,488	411,150							
	(2)補助金等(市町村に対するもの)	74,271,138	13.4%	368,591	293,026	41,846,178	2,150,117	2,110,752	7,701	4,663,999	0		22,830,774	
	(3)補助金等(その他に対するもの)	63,028,011	11.3%	2,038,116	10,261,472	34,414,781	6,312,496	5,206,537	193,412	4,436,018	165,179		0	
	(4)他会計等への支出額	5,641,624	1.0%	2,151,840	0	0	3,389,220	95,264	0	5,300			0	
	(5)公共資産整備補助金等(市町村に対するもの)	6,047,161	1.1%	629,600	17,111	1,709,363	697,716	1,971,485	0	1,021,886			0	
	(6)公共資産整備補助金等(その他に対するもの)	36,058,433	6.5%	24,867,621	719,997	2,500,365	608,448	7,107,717	0	254,285			0	
	小 計	195,906,692	35.2%	30,055,768	11,412,293	90,799,175	13,569,147	16,491,755	201,113	10,381,488	165,179		22,830,774	
4	(1)支払利息	17,386,925	3.1%								17,386,925			
	(2)回収不能見込計上額	340,436	0.1%									340,436		
	(3)その他行政コスト	0	0.0%				0						0	
	小 計	17,727,361	3.2%	0	0	0	0	0	0	0	17,386,925	340,436	0	
経 常 行 政 コ ス ト a				94,106,873	172,198,082	97,340,879	20,759,336	58,635,522	37,850,920	33,209,527	1,494,512	17,386,925	340,436	22,967,253
( 構 成 比 率 )				16.9%	31.0%	17.5%	3.7%	10.5%	6.8%	6.0%	0.3%	3.1%	0.1%	4.1%

【経常収益】

													一般財源 振替額		
1	使用料・手数料 b	5,858,783		791,651	182,132	819,678	116,975	94,773	1,229,078	170,078	0	0	0	2,454,417	
2	分担金・負担金・寄附金 c	574,540		162,823	20	68,889	4,218	313,485	0	24,184	0	0	0	922	
経 常 収 益 合 計 (b+c) d		6,433,323		954,473	182,152	888,567	121,193	408,258	1,229,078	194,262	0	0	0	2,455,339	
d/a		1.16%		1.0%	0.1%	0.9%	0.6%	0.7%	3.2%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%		
(差引)純経常行政コスト a-d		549,856,941		93,152,399	172,015,930	96,452,311	20,638,144	58,227,264	36,621,842	33,015,265	1,494,512	17,386,925	340,436	22,967,253	△ 2,455,339

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

# 純資産変動計算書

自 平成24年4月 1日

至 平成25年3月31日

(単位:千円)

	純資産合計	公共資産等整備 国庫補助金等	公共資産等整備 市町村負担金等	公共資産等整備 一般財源等	その他 一般財源等	資産評価差額
期首純資産残高	1,480,735,097	734,200,297	95,432,109	1,637,880,343	△ 986,685,974	△ 91,678
純経常行政コスト	△ 549,856,941				△ 549,856,941	
一般財源						
地方税	206,785,951				206,785,951	
地方交付税	139,082,190				139,082,190	
その他行政コスト充当財源	37,604,241				37,604,241	
補助金等受入	89,765,959	22,002,422			67,763,537	
市町村負担金等受入	2,905,377		1,781,480		1,123,897	
臨時損益						
災害復旧事業費	△ 16,747,586				△ 16,747,586	
公共資産除売却損益	347,978				347,978	
投資損失	△ 1,011,155				△ 1,011,155	
⋮						
科目振替						
公共資産整備への財源投入				33,274,628	△ 33,274,628	
公共資産処分による財源増		0	0	0	0	0
貸付金・出資金等への財源投入				2,432,340	△ 2,432,340	
貸付金・出資金等の回収等による財源増		0	0	△ 33,531,804	33,531,804	
減価償却による財源増		△ 27,926,044	△ 3,753,522	△ 61,971,707	93,651,273	
地方債償還に伴う財源振替				39,094,229	△ 39,094,229	
資産評価替えによる変動額	142,585					142,585
無償受贈資産受入	0					0
その他	0					
期末純資産残高	1,389,753,695	728,276,675	93,460,067	1,617,178,029	△ 1,049,211,982	50,907

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

## 資金収支計算書

〔 自 平成24年4月 1日  
至 平成25年3月31日 〕

(単位:千円)

1 経 常 的 収 支 の 部	
人件費	223,487,015
物件費	23,388,802
社会保障給付	10,860,325
補助金等(市町村に対するもの)	74,271,138
補助金等(その他に対するもの)	63,028,011
支払利息	17,386,925
他会計等への事務費等充当財源繰出支出	3,746,205
その他支出	21,952,220
支 出 合 計	438,120,641
地方税	206,775,302
地方交付税	139,082,190
国庫補助金等	55,616,804
使用料・手数料	5,845,069
分担金・負担金・寄附金(市町村からのもの)	1,109,925
分担金・負担金・寄附金(その他からのもの)	1,228,052
諸収入	7,931,445
地方債発行額	94,454,222
基金取崩額	23,190,855
その他収入	24,895,125
収 入 合 計	560,128,989
経 常 的 収 支 額	122,008,348

2 公 共 資 産 整 備 収 支 の 部	
公共資産整備支出	79,795,291
公共資産整備補助金等支出(市町村に対するもの)	6,047,161
公共資産整備補助金等支出(その他に対するもの)	36,058,433
他会計等への建設費充当財源繰出支出	130,429
支 出 合 計	122,031,314
国庫補助金等	25,266,278
分担金・負担金・寄附金(市町村からのもの)	1,597,836
分担金・負担金・寄附金(その他からのもの)	1,316,491
地方債発行額	64,400,497
基金取崩額	5,597,515
その他収入	1,239,326
収 入 合 計	99,417,943
公 共 資 産 整 備 収 支 額	△ 22,613,371

3 投 資 ・ 財 務 的 収 支 の 部	
投資及び出資金	1,669
貸付金	6,210,731
基金積立額	18,549,149
定額運用基金への繰出支出	51,963
他会計等への公債費充当財源繰出支出	5,915,577
地方債償還額	89,103,181
長期未払金支払支出	
支 出 合 計	119,832,270
国庫補助金等	8,882,877
貸付金回収額	9,072,422
基金取崩額	743,501
地方債発行額	1,470,329
公共資産等売却収入	347,978
その他収入	1,048,848
収 入 合 計	21,565,955
投 資 ・ 財 務 的 収 支 額	△ 98,266,315

当年度短期借入金(翌年度繰上充用金)増減額	0
当年度歳計現金増減額	1,128,662
期首歳計現金残高	20,774,900
期末歳計現金残高	21,903,562

※1 一時借入金に関する情報

- ① 資金収支計算書には一時借入金の増減は含まれていません。
- ② 平成24年度における一時借入金の借入限度額は150,000,000千円です。
- ③ 支払利息のうち、一時借入金利子は33,350千円です。

※2 基礎的財政収支(プライマリーバランス)に関する情報

収入総額	681,112,887 千円
地方債発行額	△ 160,325,048
財政調整基金等取崩額	△ 5,940,536
支出総額	△ 679,984,225
地方債元利償還額	106,456,756
財政調整基金等積立額	7,344,423
基礎的財政収支	△ 51,335,743 千円

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)